

男女共同参画の視点から考える防災 ～ まずは日ごろの備えから ～



日本では、毎年のように各地で大規模な自然災害が発生しており、多くの人命や財産などが失われています。

災害が発生したとき、行政による救助や支援（公助）には限界があり、一人ひとりの備え（自助）と地域での助け合い（共助）が必要です。

この冊子は、男女共同参画の視点から、日ごろの備え（自助）や避難時の工夫（共助）についてまとめたものです。是非ご一読ください。

●地域防災は、みんなで！

災害が与える影響・抱える困難・支援ニーズは、性別や世代により異なります。また、災害に強い地域社会をつくるには、男性中心の方針決定から、地域のだれもが個性や能力を発揮できる男女共同参画の視点に配慮した**地域防災**に変わる必要があります。

いつ、どこで起こるかわからない災害に備え、だれもが安全で安心して災害という困難を乗り越えることができるよう、今すぐできることから始めましょう。

★防災訓練や災害に関する講演会などに**参加**しましょう

訓練や講演会などを通じ、防災に対する共通の認識を持つことにより、一人ひとりが地域社会において重要な役割を担うことができ、災害に強い地域づくりにつながります。

★女性の参画を推進し、**活性化**を図りましょう

防災・災害復興対策や方針決定の場、消防団や防火クラブ、自治会組織や民生委員などの地域コミュニティへの女性の参画を積極的に進めましょう。

女性が防災や災害復興の分野に参画することにより、地域の組織力や防災力の活性化が図られます。

★男女がともに**支え合う**地域づくりに努めましょう

ひとり暮らしや地域とのつながりが薄いと必要な情報を得にくく、災害時には孤立しやすくなります。

災害時において、性別や世代を問わず、男女がともに支え合えるよう、日ごろから家庭や地域、職場などにおいてつながりを育て、協力関係を築いておくことが大切です。

●そろえておきたい！ 女性ならではの避難アイテム

生活用品は、性別や世代、家族構成、立場などにより違いがあり、サイズが豊富な女性用下着や生理用品など、行政の備蓄では対応が難しいものもあります。

次にご紹介するのは、災害を経験した女性の声を参考にした、いざという時に必要なものの一部です。これらを目安に自分や自分の家庭にとって必要なものを考え、まとめておくと安心です。

★女性ならではの避難アイテム

| | |
|--------------------|--|
| 生理用品 (1周期分) | 必要な枚数も個人によって違いますが、避難所では物資の配分は公平です。多めにほしくても要望しにくいものでもあります。 |
| おりものや 水分用ケアシート | 入浴や洗濯ができない状況でも、下着を汚さず、デリケートゾーンを清潔に保つことに役立ちます。 |
| 携帯用ビデ | 衛生状態が良くないと膀胱炎や膣炎などになる女性がいます。本来は膣の中を洗浄するものですが、おしり洗浄としても活躍します。 |
| 汗拭きシート | 身体を清潔に保ち、体臭を抑えます。 |
| 自分のサイズに あった下着 | ブラジャーなどサイズが豊富なものは支援物資として届きにくく、要望しにくいものでもあります。 |
| ハンドクリーム リップクリーム | 水不足から消毒剤を使い続けたり、救援物資が入った段ボールに触ることが多いため、手肌の保護が必要となります。ハンドクリームは、顔用として代用でき、リップクリームは、アイクリームとして使うことができます。 |
| 眉ペンシル | 被災地で重宝されたのが眉ペンシル。化粧ができなくても眉だけでも描けば、人前に出られる気分になります。 |
| 鏡 | 避難所の鏡は公共のもの、自由に自分を映せる鏡は女性にとっての必須アイテム。自尊心にもつながります。 |
| 髪留め (ゴムやピン留めなど) | 洗髪ができない状況でストレス軽減に役立ちます。 |
| 防犯ブザー | 不安やストレスが高まりやすい災害時は、女性への暴力・性犯罪が発生しやすくなります。身を守るために備えましょう。 |
| 大判ストール はっ水加工風呂敷 | 防寒対策だけでなく、授乳や着替えなどで他人が気になる時にも使えます。はっ水加工された風呂敷は端を結んでバッグ状にすると水を運ぶことができ、レインコートや敷物などとして使うことができます。 |
| スニーカー・ 靴下・ズボン | 普段、スカートやかかとの高い靴を履いて生活している人は、職場などに常備しておくに役立ちます。 |

●乳幼児がいる場合は・

ミルク、哺乳瓶、離乳食、おむつ、おしり拭き、だっこ（おんぶ）紐 など

●高齢者がいる場合は・

おかゆなどのやわらかい高齢者用食品、常備薬、入れ歯・入れ歯洗浄剤、眼鏡（老眼鏡）、補聴器・補聴器用電池、尿漏れパッド など

●避難することになったら●

- ★避難所の運営組織に女性を加え、男女のニーズの違いなど、男女双方の視点に配慮しましょう
- ★個人の能力や才能・特技を活かしましょう
「炊き出し班は女性」など、性別での役割分担をせず、個人の能力・才能・特技を活かし、男女がともに活躍できるようにしましょう。
- ★安全・安心・快適な空間を確保しましょう
 - 洗濯物の干し場や更衣スペースは男女別に設置する
 - 女性用トイレについては、多めに数を確保し、設置場所にも配慮する
 - 一人暮らしの女性や、家族に高齢者・障害者・乳幼児のいる場合など、被災者の状況に応じた快適な居住空間をつくる など

◇性犯罪から身を守りましょう!◇

非常時は、通常時に比べ、犯罪が3倍になると言われています。被災地は、明かりが行き届いていないことも多く、警察官の不足から無法地帯となり、とても危険です。人目をばばからず、性犯罪が横行し、その被害は成人女性だけではなく、子どもにも及びます。

- ★寝る時は、Tシャツにスウェットパンツなど、ユニセックス（男女のどちらでも向くもの）なデザインのもの、下着もカップ付きのタンクトップやボクサーショーツなどにしておくと、避難所でも一見して女性と分からず、危険回避につながります。また、洗濯物を干す時に不安が軽減されます。
- ★長い髪が隠れるよう帽子を被る（帽子の色にも注意!）
- ★単独行動はしない ★防犯ブザーを持ち歩く
- ★知らない人からの声かけに注意する
- ★自宅避難の場合は、むやみに人を家に入れない など

性犯罪だけでなく、被災したことによる不安やストレスなどが原因で暴言・暴力・ストーカーなどの被害が増加します。普段以上に注意し、自分や大切な人の身を守りましょう!もし、被害にあったり、不審な行動を見かけた場合は、ひとりで悩まず信頼できる人に相談しましょう。

羽曳野市 女性相談窓口

人間関係、暴力、からだのことなど、女性をとりまく悩みを専門相談員が応じます。ひとりで悩まず、まずは電話でご予約ください。

予約電話 072-958-1111 (内線 1055)

相談日時 第1水曜日・第2金曜日・第4水曜日の13時30分～16時30分
面接相談・電話相談 いずれも可

※ただし、偶数月の第4水曜日は面接相談のみ